

学校運営計画 (4月)			評価 (3月)			
学校運営方針		文武両道を校是とし、豊かな人間性と創造的な知性を備え、社会の発展と文化の創造に貢献できる工業人材を育成する。 1 校訓「質実剛健 自律 創造」を体現する生徒の育成を目指した教育活動を全教職員で推進する。 2 次代を担う工業人材を育成するリーダー校としての責務を果たすべく、ものづくり教育を通して工業高校としての魅力ある学校づくりに邁進する。				
昨年度の成果と課題		本年度重点目標				
昨年度は、「Team Fukko」「燃えろ福工生、目指せ日本一」を合言葉に、全職員一丸となり専門教育はもとより、知的財産教育や資格取得、そして部活動で様々な成果をあげることができた。 本年度は、創立124周年を迎える伝統のある工業高校としての使命を果たすべく、校訓である「質実剛健 自律 創造」を生徒自らが体現できるように育成することを目指す。そして、計画的かつ組織的なキャリア教育「福工サクセスプラン」のプログラムの更なる充実、および発展に努める。また、現在取り組んでいる学習評価と指導の一体的な改善により、教員の授業力向上を図る。		具体的目標				
自ら学ぶ力の育成		「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善、教科指導力の向上 評価手法の研究推進による指導と評価の一体化 自己学習力育成へ向けたアダプティブラーニングの検討・推進				
自ら考え行動する力の育成		生徒会や各学科団長を中心とした学校行事の運営 積極的な生徒指導による自律心の育成 ネットマナー、いじめ防止等への取組の推進 カウンセリング体制の充実				
将来を展望しキャリア発達を図る力の育成		キャリアデザインノートの活用による自己実現の支援 学年学科コースの連携強化による組織的進路指導の充実 進路意識の向上を図るガイダンス等関係行事の効果的実施				
工業教育の充実		各学科の特徴を生かした教育活動の推進 競技大会、コンテスト等の入賞に向けた指導体制の再構築 ジュニアマイスター全員取得への取組				
A						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題		
教務領域	学務 指導力向上	各教科・科目の特性を活かし、協働的に対話的な授業展開を推進する。	B	A	新型コロナウイルス感染防止のため、対話的な授業展開が困難であったが、ホームページやZoomを活用し、行事の案内や課題の提示をすることができた。次年度は、さらに研修部と連携を深めて、教職員にICT機器のスキルアップ研修を実施したい。また、教育課程委員会と連携を深め、評価方法を先行実施することで、新教育課程へとスムーズに移行する基盤を作りたい。	
		「主体的・対話的で深い学び」を実現するために授業改善を推進する。	A			
		自己学習力を育成するため、アダプティブラーニングを検討・研究する。	B			
	教科指導	新課程への移行がスムーズに行えるように、評価手法の研究を進め、指導と評価の一体化を図る。	A			
		学習の評価において、成果や結果だけでなくそのプロセスも評価する。	A			
		教育課程委員会と連携し、新課程へのスムーズな移行と評価方法の確立を図る。	A			
	図書視聴覚 図書教育	図書館整備の推進と広報活動の活性化により、図書館利用の促進を図る。	施設整備、及び視聴覚機器の整備を進め、有効利用と利用時のマナー向上を図る。			A
			図書館情報「書窓」や新刊案内「BookNavi」等の発行をととして図書館の広報活動の推進に努める。			B
			図書委員を中心に朝読書、ブックポイントキャンペーン等を実施し、読書習慣の定着・活性化を図る。			A
	企画広報 学校行事 広報活動	学校行事の有効性を確認しつつ、開かれた学校づくりのため効果的なPTA活動と広報活動を展開する。	各学校行事後の振り返りを通して学校教育力がより高まる学校行事を検討する。			A
		本校教育活動の広報対象を中学校保護者、教員、中学生や塾とし、本校紹介を積極的に行う。	A			
		PTA活動を通じて保護者と学校との連携を深め、より効果的な教育活動を行えるようにする。	A			
生活領域	生徒指導 生活指導	身だしなみ検査や朝の挨拶運動をとおして、基本的な生活習慣を身につけさせる。	A			
		学校生活を通じて人を思いやる心や認め合う気持ちを育てる。	A			
		朝の門立指導や校外指導、交通安全教室等により安全意識や交通マナーを身につけさせる。	B			
	教育相談	生徒が安心・安全な学校生活を送れるようアンケートや相談箱、生徒との懇談等を活用しながら生徒の状況や行動を見守り、教師間の情報共有を行い、生徒との繋がりを図っていく。	全職員に、本校のいじめ防止基本方針の周知を図り、全職員でいじめ防止に取り組む。	A		
			全職員が生徒のようすや行動を見守り、関係職員が生徒や保護者との懇談によって情報を共有し、生徒指導に活かす。	A		
			生徒の問題に対し、各分掌と連携を図りながら、対処する。	A		
	生徒会 生徒会活動 部活動	生徒の主体的な活動により、学校行事や部活動を活性化させ、成功体験を共有し、愛校心を持たせる。	生徒会長、生徒会執行部、応援リーダーを中心に学校行事を運営する。	A		
			リーダーと連絡を密に行い、活躍の場を提供する。	B		
			部活動加入率を85%を目指し、ミスマッチ入部者を減らす手立てを考える。	A		
	保健 健康指導 安全指導	校内外の環境整備と委員会活動の活性化により、生徒の心と体の健康と安全教育の充実を図る。	健康への意識を向上させるため、健康診断の結果を随時連絡し、治療勧告を行い、個別の保健指導を充実させる。	A		
		心の健康相談の実施と、エビペン等救急時の対応や事後措置等の生徒の健康と安全確保に努める。	A			
		校内外の清掃をHR・部活動・委員会活動等で徹底実践することで生徒の自己肯定感の向上を目指すとともに、地域に愛される美しい学校を保つ。	A			

進路領域	就職指導	進路保証	生徒の進路意識を高め、自己の適性や希望進路を考慮した進路指導を行い、希望進路を実現する支援を行う。	きめ細やかな進路相談と生徒の特性を活かした就職指導に努め、1次での採用内定率95%以上を目指すとともに就職内定率100%を目指す。 キャリアデザインノートの活用により、生徒のキャリア形成と進路実現に向けての意識高揚に努め自己実現の支援にあたる。 公務員希望者に対しては、志望動機を明確にさせ、継続的な課外補習や模擬テストを行い、一人ひとりの学習状況を把握しアダプティブラーニングを取り入れて合格率向上を図る。	A B A	A	昨年度と比較すると求人数は、12.9%減少しているものの一人当たり11.9社と比較的高い数値を示している。学年・学科との連携をしっかりと図ったことで就職試験一次内定率が昨年度より1%ほど上回る好結果に繋がったと考えている。次年度は、この結果に甘んじることなく、生徒自身が主体的にキャリア形成ができるようにキャリア教育の内容精選・見直しを行い、時代に即した内容で取り組めるよう組織の活性化を図る。 コロナ禍での企業対応に関してマニュアル化をすることができた。次年度以降も危機管理の観点からこれらの事を考慮していく必要がある。	
		就職指導	キャリア教育プログラムに基づき、各学年の進路目標に応じた活動を計画し、将来の社会人・職業人として自己実現できる基礎能力を養い、学校生活の充実を図る。	進路ガイダンス・進路講演会・インターンシップ・応募前職場見学などの推進・充実に努めるとともに生徒一人ひとりの進路意識の高揚と学校生活の充実を図る。 進路研修や進路学年集会等の内容充実と効果的な実施を行い、生徒のキャリア形成の支援と希望進路実現を図る。 学年・学科・コースと生徒一人ひとりの進路に関する情報や学習状況の共有を図り、キャリア教育の充実と組織の強化を図る。	A A B	A		
		進学指導	進学に対する目的意識を高く持たせ、計画的・組織的に進学指導を進める。同時に、学力を身につけることで自尊感情・自己肯定感を高め、進学後の学校生活を有意義に送らせる。	進路ガイダンスや説明会を充実させ、進路意識の向上を目指す。 個人面談を定期的に行い、個に応じた進路実現を目指す。情報を教員間で共有し、生徒に適切な進路選択を促す。 進学課外を充実させ、校内進学模試でその実力を測り、入学試験を突破できる学力の向上を図る。また、進学後の学習に対応できる学力を身につけさせる。	A B B	B	B	生徒への進路ガイダンスや保護者への進路説明会などの機会を大いに活用し内容の周知徹底を行うとともに進学意識の向上を図る。
	教育情報	教育の情報化	生徒の情報活用能力の育成や教師の授業改善のためのICT活用向上に向けた支援を行う。	各教科にICT推進委員を新設し、ICT機器の整備等を行っていく。	A	B	B	各学科・コースのICT担当者により、各種オンラインによる学校行事が開催できたことはコロナ禍の財産である。次年度は生徒が主体となり運営ができるように図っていく。また、ICTを活用した授業を実践していく。
				研修部と連携して、教師のICT機器のスキルアップを図る研修会を実施する。	B			
				持続可能なオンライン学習が行えるように支援を行う。	B			
	研修領域	研究・研修	教員として教育力の向上を目指して、幅広く研修会を実施する。また、評価方法についての研究を通して、「わかる授業」を作り上げていくための授業改善を軸とした研修の充実を図る。	研究授業等の参観を通して授業改善が図れるように効果的な研修計画を立てる。	B	B	B	次年度も若年教員研修や教育実習に係る示範授業等の案内を周知し、授業参観者数の増加を図る。また、事後の活発な研究協議を行う。さらに、各教科・学科での評価に関する研修やICT機器、校務支援システムの研修も行う。
				職員研修の内容の充実を図り、職員の教育力の向上に繋がるように工夫検討していく。	B			
				外部講師や情報教育スキルの高い職員によるICT機器やネットの活用を促進する研修を行う。	A			
					A			
	学年	1学年	主体的学びの育成を通して基本的な生活習慣を確立し、伝統ある福工生としての自覚と誇りを培う。	時間や規則を守り、礼儀正しく、主体的に学習する生徒の育成を目指す。	A	A	A	コロナの影響により入学式や学校行事も行うことができず厳しいスタートとなったが、多くの先生方のお蔭で生徒は学校に慣れ学校生活を送ることができた。次年度は先輩に福岡工業の伝統を伝えていけるよう多くの行事などを経験し福工生としての自覚と誇りを育てていきたい。
				生徒の主体的活動の促進と学習環境整備の徹底した指導を行う。	A			
保護者との連絡や学年の情報交換を密に行う。				A				
2学年		伝統ある福工の中堅学年を担うものとしての自覚と誇りを持たせるために、「私がやる」を学年テーマとして常に好奇心と向上心そして挑戦する心を持って学校生活を送らせる。	文化祭・体育祭・修学旅行などの諸行事に主体的・積極的に取り組ませることにより、中堅学年として学校全体の活性化に貢献させる。	B	A	A	コロナ禍にあって学校再開当初は自己中心的な振る舞いが目立っていたが、体育祭や生徒会長の選出などを経て自覚が芽生えてきている。昨年の課題であった学習面も学期末補習の対象生徒数も少なくなり、成長が見られる。3年生となる次年度はより強い意識を持たせて進路実現に向かわせたい。	
			全ての教育活動を通して、仲間や互いを尊重することの大切さを意識させ、ともに伸び行く集団を育む。	A				
			保護者や教職員相互の連携を密にする中で情報を共有し、生徒へ基礎学力の定着・進路実現に向けた適切な指導を行う。	A				
3学年		福工生という自覚と誇りをエネルギーとするチャレンジを奨励し、個々の高校生活の充実を図る。自己実現に必要な「学びに向かう力」の充足を図り、卒業後も失敗さえも糧として伸び続ける社会人となる基礎を築くことを目指す。	個々の能力を最大限に発揮できる進路選択と実現に向けてできる努力を徹底的に支援し、第1希望進路実現95%を目指す。	A	A	A	不安な要素が多いにも関わらず、生徒は福工生として積み上げてきた自信を胸に、引き下がることなく進路実現によく努力した。進路決定後の学校生活も大きく乱れず、最後まで上級生として振る舞えたと感じることができる集団となった。担任団で蓄積してきた集団形成や進路指導の方法を次学年に引き継ぎたい。	
			保護者や関係職員との間で、情報と目標を共有して生徒の指導にいかし、進路選択のミスマッチを防ぐ手段をとる。	A				
			互いを尊重し、共に学びあい共に伸びゆく集団として、下級生の手本となる福工生としての誇りある言動を促す。	A				
人権・同和教育		本年度の人権教育全体計画、年間計画に基づき、全ての教科・領域において生徒一人ひとりに人権教育に関する知識理解と人権教育の育成を目指し、学力と進路の保障を全職員で邁進する。	人権・同和教育推進委員会を定期的開催し、各学年・分掌から情報を共有し、連携をとりながら生徒指導に活かす。	B	A	A	特設授業では熱心なご指導のおかげにて生徒の真剣な取り組みが見られた。また特設授業のみならずHRや授業においても、先生方の生徒の言動への見守りが行き届いており、人権に配慮された空間がかなり保たれている。	
			特設授業を人権・同和教育推進委員会にて事前検討したうえで、学年で事前学習を行い授業に臨み、事後反省する。	A				
			教職員が、全ての教育活動において生徒一人一人を大切に作る環境作りに配慮する。	A				
普通科	基本的な学習習慣を身に付けさせるとともに家庭における自己学習力を身に付けさせ、進路実現を果たす力を身に付けさせる。	ICTを活用した授業の拡充、教材の構築を図るとともに各教科間で協力し活用方法の充実を目指す。	A	A	A	コンピュータや書画カメラといったハード面を充実していただいたおかげで、わかる授業ができるようになった。27教室に1台ずつ行き渡るまで充実させたい。次年度は、進学実績を国公立大学合格10名以上、福大合格20名以上を目指す。		
		専門教科との連絡を密にし、相互に課題を調整しながら各生徒の進路実現をフォローする。	A					
		評価方法を研究し、教員の指導と生徒の理解度が一致するような授業改善を目指す。	B					
染織デザイン科	社会人として通用する基本的な生活習慣の確立、基礎的な学力の向上及びキャリア教育の推進を図ると共に授業や資格取得を通して学習方法を取得させ学習意欲の向上を充実させる。	行事を通じて責任を持って機敏に行動できる実行力の育成と達成感の経験を通じて意欲向上の充実を図る。	A	B	B	例年に比べると生徒主体の学校行事が少なかったが、科独自の行事等を計画し上級生主体の行事の実践ができた。進路指導は個別指導が足りずに良好な結果が得られず、次年度への課題となった。公募に関しては例年並みに推移しておりレベルアップを図る。		
		個別対応指導を中心に、進路意識の高揚を図り、1次応募による進路内定率100%の実現を目指す。	B					
		デザイン公募の入選作品の増加を図る。資格試験合格率前年度比5%増、色彩検定文部科学大臣賞受賞を目指す。	B					
建築科	基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、建築技術者として社会の発展と文化の創造に貢献できる有為な人材を育成する。	時間・期限の厳守、服装、態度等社会人としての基礎基本を確立させる。	B	B	B	希望進路実現ができるように、自ら考え、自律できるように指導体制を築いていく。補習などの取り組みの体制を改善し、資格試験の更なる合格率向上を目指す。ICTを積極的に活用し、授業改善を行うことができた。引き続き教員の専門性を高めていく。		
		建築施工管理技術者試験等の各種資格取得の指導方法を改善し、受験者全員合格を目指す。	B					
		授業改善を積極的に行い、建築専門知識・技術の向上を図る。	A					
機械工学科	ものづくりを通して社会に貢献する意識と自らが進路を決定していく態度を育成し、工業技術や資格取得に興味・関心を持たせ、進路に対する意識向上を図るとともに、就職内定率100%を早期に達成する。	時間厳守、言葉遣い、整理整頓、挨拶等、社会人として必要な基礎・基本の充実を図る。	B	C	B	進路目標の達成に向けて生徒の自覚と自主性を促し、指導体制を整えていきたい。ものづくりに関しては人材育成事業や研修等を通して教員の実力を向上させたい。資格試験への取り組みでは共通理解を図り、ジュニアマスター取得に向けて補習内容の充実および合格率の向上を目指す。		
		資格取得の目的を明確にし資格取得に積極的に取り組み、年間の資格合格率90%を目指す。	C					
		インターンシップ等を利用して進路に対する意識向上を図り、1次応募による進路内定率95%の実現を目指す。	A					

教 科 ・ 学 科	機械工学科 工業進学コース	ものづくりに関する技術や資格の重要性を認識させ、工業人のリーダーとして、さらに研究者としての志を育成する。	生徒の研究開発職への進路意識を高めさせ、国公立大学・高専・難関私立大学への進学率が15名程度合格となることを目指す。	A	A	A	学校再開が約2か月遅れ、入学試験対策を心配したが、生徒の頑張りで国公立・高専・難関私立大学に26名が合格することができた。次年度も小人数指導を生かし、基礎学力が身につくように努める。また、早い時期に進路目標が定められるように保護者・生徒と十分なコミュニケーションが取れるようにする。
			理工系大学に進学する上で必要な基礎学力の習得やものづくりに必要な技術・技能を習得させる。	B			
			少人数制の授業の特性を活かして、きめ細やかな指導を行うことで理解度を増させ、希望進路の実現を目指す。	A			
	情報工学科	基本的な生活習慣や自己学習力、課題解決力を身につける教育活動を充実させ、ものづくりや競技会に情熱をもって取り組み、情報化社会で活躍する生徒を育成する。	情報処理技術者試験の出題傾向を分析し、効果的な指導を行う。	B	A	A	今年は春と秋の基本情報技術者や情報セキュリティマネジメントの試験が実施されなかった。今後はCBT方式による試験が計画されているので、次年度はこの方式に対応した指導の充実に努める。
			情報技術の進展に対応した実習教材の開発やICTの活用により、学習意欲を高める指導をする。	A			
			生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行い、内定率100%を目指す。	A			
	環境化学科	化学技術者として必要な知識や技術を身につけさせるとともに、環境問題に興味関心を持ち自ら課題を見つけ解決できる人材を育成する。	評価手法を意識した授業改善を積極的に行い、自ら考えて課題を解決し行動できる力を育成する。	B	B	B	次年度は本年度の評価手法を再検討するとともに実習内容や進め方、補習等の在り方について検討を行い、自ら考えて行動し知識や技術を身につける環境を作っていく。
			提出物の期限厳守や報告・連絡・相談の指導を徹底し、社会人としての能力の育成を図る。	B			
			進路について考える機会を増やし、一人一人が進路実現に向けて意識した行動ができるように指導する。	B			
	電気工学科	生徒が電気技術者として社会に貢献できるように自立心と誇り並びに自己の目標を持てるよう日々の学習活動を充実させる。また、全教育活動を通して、何事にも積極的に取り組むことが出来る向上心を持つ生徒を育成する。	積極的に授業改善に取り組み、電気技術者として必要な学力の定着を図る。	A	A	A	実習を中心に、各科目で観点別評価を積極的に取り入れ、それを生徒に示すことで、生徒の意識が高まり、教育効果が上がっている。その結果、第二種電気工事士試験にほぼ全員が合格するなど、実績が上がった。次年度も評価方法の精度を上げていく。
			生徒の意識を高め、第二種電気工事士の合格率が9割以上になることを目指す。	A			
			ものづくりを通して調査研究や考えることの大切さに気づかせるとともに、創造力や表現力を身につけさせる。	A			
	都市工学科	土木技術者として、社会性やコミュニケーション能力の発揮できる生徒の育成を目指し、自信と誇りを持ち何事にも積極的に挑戦する人材を育成する。	基礎学力の向上を目指し、聞く力・話す力・考える力の育成を図ると共に、自ら判断し行動できる力を育成する。	B	B	B	今後も自ら学び、課題に取り組む姿勢を育成する。授業における評価方法の改善に努力し、授業内容・進度、資格取得の補習のあり方等検討していく。次年度も目標としている「社会に貢献できる土木技術者の育成」に積極的に取り組んでいく。
			学ぶ環境を整え、時間厳守や身だしなみ等、基本的な生活習慣を確立し、社会に貢献できる生徒の育成に当たる。	B			
			積極的な資格取得の取組みを実践し、あらゆる機会を活用し、進路意識を高揚させ、内定100%の実現を目指す。	A			
	電子工学科	電子技術者としての専門力を身につけさせるとともに、基本的な生活習慣の定着を図り、逞しく健康であるための体力や協調性豊かなコミュニケーション力の育成を図る。	基礎・基本の指導にともない時間やレポート期限の厳守、身だしなみ、挨拶励行、整理整頓を徹底させる。	A	A	A	基本的な生活習慣改善を目指し、各学年での情報共有により安定化を図った。体育祭期間では、減り張りを強調させた指導態勢が功を奏し、就職希望者の全員が第一希望の受験先で合格内定を得ることができた。昨年度中止となった無線資格取得に向け目標合格率を目指す。
			特殊無線技士の合格率80%以上、工事担任者80%以上の合格を目指す。	B			
			授業、学校行事、課題研究等の様々な場面にて率先してリードできる態度を養う。	A			